

2024年10月31日 全7頁

Indicators Update

2024年9月鉱工業生産

生産体制の正常化で自動車工業や関連業種が持ち直し

経済調査部 研究員 石川 清香

[要約]

- 2024年9月の生産指数は前月比+1.4%と、コンセンサス（同+0.8%、Bloomberg 調査）を上回り2カ月ぶりに上昇した。認証不正問題や、8月下旬の台風による工場稼働停止の影響が一巡し、生産体制が正常化したことで、自動車工業や関連業種が持ち直した。経済産業省は基調判断を「一進一退」に据え置いた。
- 先行きの生産指数は、緩やかに上昇するとみている。自動車の生産体制正常化で受注残に対応するための挽回生産が見込まれる。また、シリコンサイクル（世界の半導体市場に見られる循環）の回復で、半導体関連財の増産も押し上げ要因となる。ただし、日本で輸出管理規制が強化されれば、中国向けの半導体製造装置などの販売額が落ち込み、日本の生産指数が下押しされるリスクには注意が必要だ。
- 2024年11月8日に公表予定の9月分の景気動向指数は先行CIが前月差+2.7ptの109.6、一致CIが同+1.7ptの115.7と予想する。この予測値に基づくと、9月の基調判断は機械的に「下げ止まり」に据え置かれる。

図表1：鉱工業指数の概況（季節調整済み前月比、%）

	2024年								9月	10月	11月
	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月				
鉱工業生産	▲0.6	+4.4	▲0.9	+3.6	▲4.2	+3.1	▲3.3	+1.4			
コンセンサス								+0.8			
DIR予想								+1.2			
生産予測調査									+8.3	▲3.7	
補正值(最頻値)									+5.1		
出荷	▲0.7	+4.7	▲0.4	+3.9	▲4.7	+2.7	▲4.1	+2.3			
在庫	+0.6	+1.0	▲0.2	+0.9	▲0.7	+0.4	▲0.8	+0.1			
在庫率	▲5.6	+7.6	▲0.7	▲1.2	+1.7	▲2.4	+5.3	▲3.8			

(注) コンセンサスはBloomberg。

(出所) Bloomberg、経済産業省統計より大和総研作成

【生産】自動車の生産体制正常化で自動車工業や関連業種が持ち直し

2024年9月の生産指数は前月比+1.4%と、コンセンサス（同+0.8%、Bloomberg 調査）を上回り2カ月ぶりに上昇した。認証不正問題や、8月下旬の台風による工場稼働停止の影響が一巡し、生産体制が正常化したことで、自動車工業や関連業種が持ち直した。経済産業省は基調判断を「一進一退」に据え置いた。

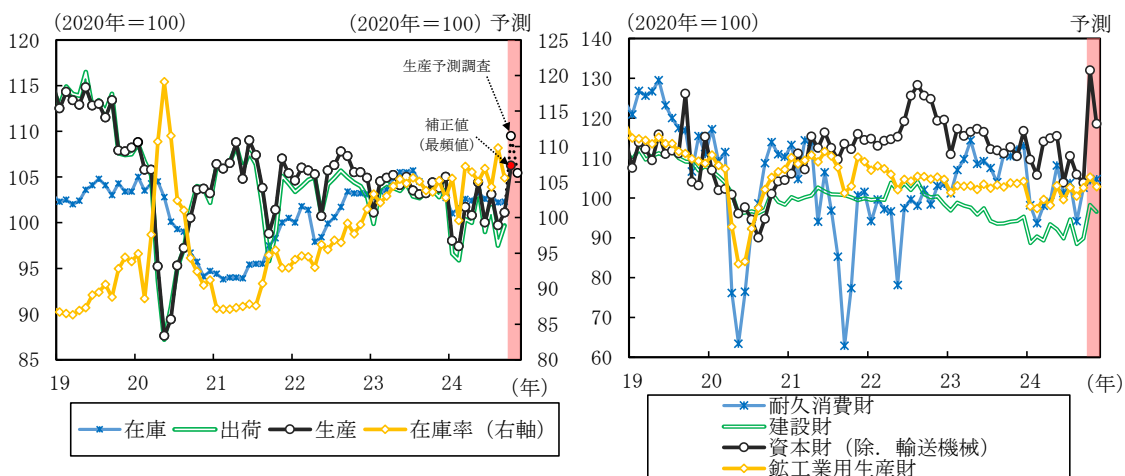
生産指数を業種別に見ると、15業種中10業種が前月から上昇した。自動車工業（前月比+7.1%）では、普通乗用車（同+13.0%）や自動車用エンジン（同+6.6%）などが増産となった。生産体制の正常化で挽回生産が進展した。8月下旬の台風で工場の稼働が停止していた期間の生産分の一部が9月に振り替えて生産されたとみられる。また、トヨタ自動車は9月4日より認証不正の影響で生産停止していた3車種の生産を再開した¹。無機・有機化学工業（同+6.6%）では、フェノール（同+71.0%）やポリエチレン（同+21.1%）などのプラスチック素材が増産となった。これらは自動車部品の原料であることから、自動車の挽回生産に伴い需要が高まった可能性がある。他方で、生産用機械工業（同▲1.7%）は低下した。半導体製造装置（同▲7.0%）は2カ月連続の減産となったが、10月の生産計画では大幅な増産が見込まれている。

財別では、生産財（前月比+2.1%）、耐久消費財（同+8.9%）、建設財（同+1.6%）、非耐久消費財（同+0.4%）が上昇した一方で、資本財（除. 輸送機械）（同▲2.0%）は低下した。

【出荷・在庫】出荷指数は2カ月ぶりに上昇

9月の出荷指数は前月比+2.3%と2カ月ぶりに上昇した。業種別では、15業種中10業種が上昇した。自動車工業（同+5.0%）では普通乗用車や小型乗用車の出荷が増加したほか、鉄鋼・非鉄金属工業（同+7.6%）も上昇した。財別では、生産財、耐久消費財、建設財が上昇した一方で、非耐久消費財、資本財（除. 輸送機械）は低下した。在庫指数は同+0.1%、在庫率指数は同▲3.8%となった。

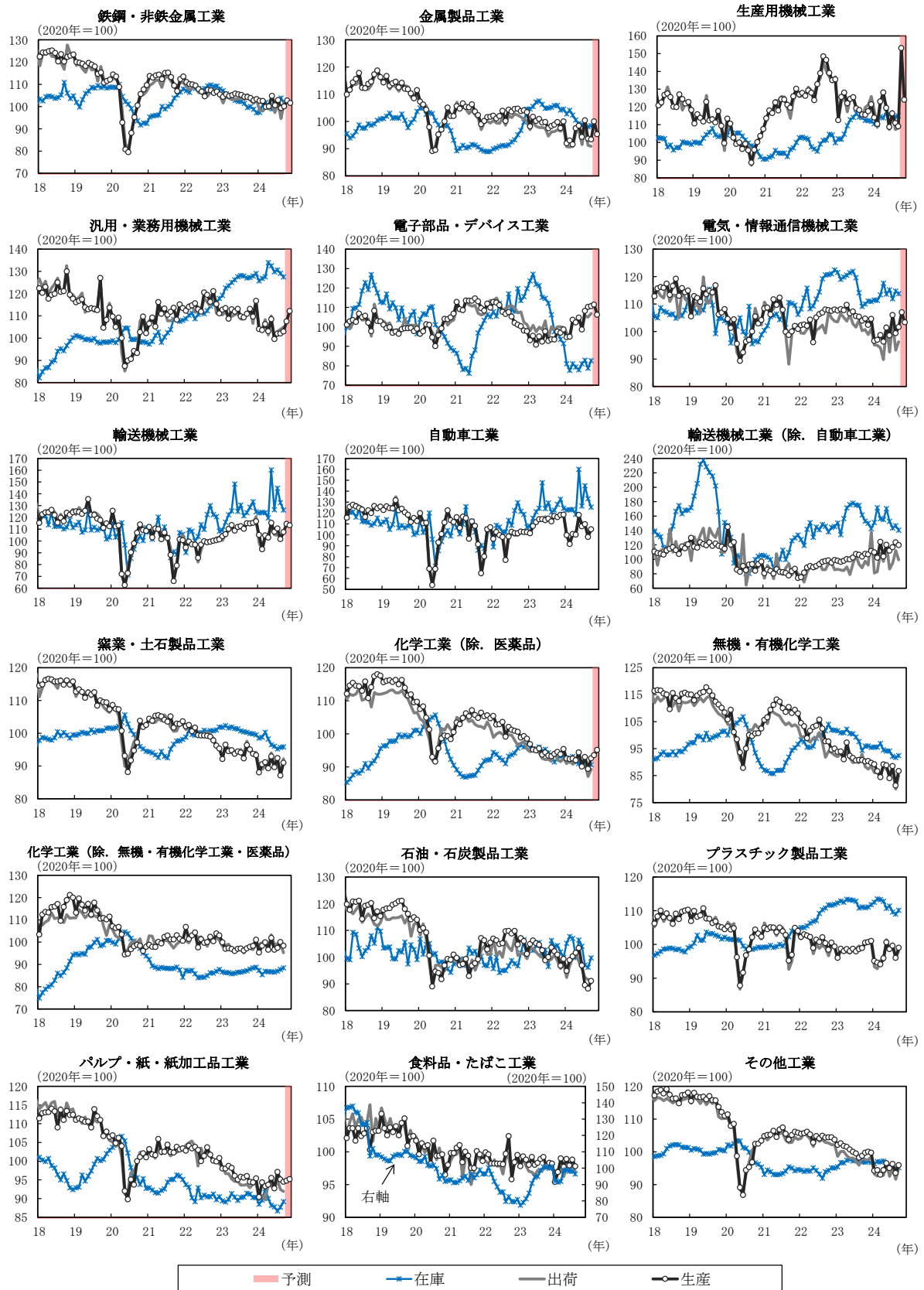
図表2：鉱工業の生産・出荷・在庫（左）と財別の生産（右）



(注) 生産指数の予測値（赤色）は、製造工業生産予測指数の補正值。その他シャドー部分の値は、製造工業生産予測調査による。
(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

¹ 日本経済新聞「トヨタ不正3車種、4日夜に生産再開 ヤリスクロスなど」（2024年9月5日）

図表3：業種別 生産・出荷・在庫の推移



(注1) 生産指数の予測値は、製造工業生産予測調査。化学工業(除. 医薬品)の予測数値は、化学工業全体の予測数値を使用。

(注2) 食料品・たばこ工業は速報では公表されないため直近値は前月の確報値。

(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

【先行き】生産指数は緩やかに上昇

先行きの生産指数は、緩やかに上昇するとみている。自動車の生産体制が正常化する中で、受注残に対応するための挽回生産が見込まれる。また、シリコンサイクルの回復で、半導体関連財の増産も押し上げ要因となる。ただし、日本で輸出管理規制が強化されれば、中国での半導体製造装置などの販売額が落ち込み、日本の生産指数が下押しされるリスクには注意が必要だ。

自動車の挽回生産は生産指数の押し上げ要因だ。トヨタ自動車は9月4日より対象3車種の生産を再開したが、9月の新車登録台数は前年同月の6割程度の水準²と、さらなる生産回復の余地がある。また、ダイハツ工業は、認証不正で開発を停止していたことを背景に、改良が間に合わない複数車種について10月末より生産を停止するが、影響は限定的とみられる。同社の発表によれば、生産停止期間は受注に大きく影響が出ない程度に短縮されるほか³、改良前の在庫車の増産なども計画されている。

シリコンサイクル（世界半導体市場に見られる循環）の回復は生産指数の押し上げ要因だ。8月の世界半導体販売額（3カ月平均）は前年比+20.6%と、8月単月の販売額としては過去最高を記録するなど⁴、米国などにおけるAI向けの半導体需要は旺盛だ。また、日本半導体製造装置協会によれば、9月の半導体製造装置販売高（3カ月平均）は同+23.4%と9カ月連続で増加した⁵。特に中国向けが引き続き堅調だ。ただし、中国は米国等による輸出管理規制を警戒して前倒しで購入しているとみられ、将来的にはその反動で需要が減少する可能性が高い。今後、日本で輸出管理規制が強化されれば、中国向けの半導体製造装置などの販売額が落ち込み、日本の生産指数を下押しするリスクがある。

製造工業生産予測調査によると、2024年10月の生産指数は前月比+8.3%（生産指数全体の計画のバイアスを補正した試算値（最頻値）⁶は同+5.1%）と見込まれている。業種別では11業種すべてが上昇する見込みだ。生産用機械工業（同+40.5%）で半導体製造装置などの増産が見込まれる。また、輸送機械工業（同+6.5%）も上昇が見込まれており、自動車の挽回生産が継続するものとみられる。

11月の生産は前月比▲3.7%となる見込みだ。業種別では、11業種中6業種が低下するとみられている。生産用機械工業（同▲19.0%）では半導体製造装置などの減産を見込んでいるほか、電子部品・デバイス工業（同▲4.7%）なども低下する見通しだ。

² 日本自動車販売協会連合会の新車統計データによれば、2023年9月の新車登録台数は約11,400台であったのに対し、2024年9月は約6,700台であった。

³ 日刊工業新聞「[ダイハツ、生産停止期間を短縮 受注機会損失を抑制](#)」（2024年10月28日）

⁴ World Semiconductor Trade Statistics “[Historical Billings Report](#)” (August 2024)

⁵ 日本半導体製造装置協会「[2024年9月度販売高（SEAJ速報値）日本製半導体製造装置（3ヶ月平均）](#)」（2024年10月24日）

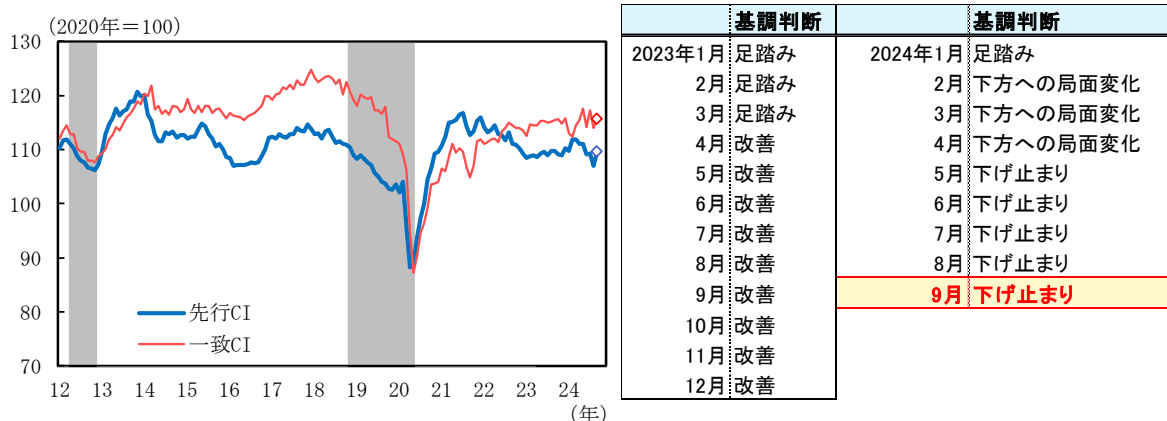
⁶ 生産計画は生産実績よりも上振れした値となることが多いため、生産指数全体の計画のバイアスを補正した試算値（最頻値）が公表されている。

【9月景気動向指数】先行CI・一致CIはともに上昇の見込み

鉱工業指数の結果を受け、2024年11月8日に公表予定の9月分の景気動向指数は先行CIが前月差+2.7ptの109.6、一致CIが同+1.7ptの115.7と予想する（図表4）。先行CIでは構成指標のうち、鉱工業用生産財在庫率指数（逆サイクル）や中小企業売上げ見通しDI、最終需要財在庫率指数（逆サイクル）などが改善した。また一致CIでは構成指標のうち、鉱工業用生産財出荷指数や輸出数量指数、商業販売額（卸売業）（前年同月比）、耐久消費財出荷指数などが悪化した。この予測値に基づく、9月の基調判断は機械的に「下げ止まり」に据え置かれる。

先行きの経済は緩やかな改善基調が続くと見ている。2024年7-9月期の実質GDP成長率は、小幅ながら2四半期連続のプラス成長を見込んでいる。夏物商材を中心に財消費が拡大したほか、半導体市況の回復を受け関連部品の輸出が増加した。10-12月期は、自動車の生産体制正常化に伴う増産や、所得環境の継続的な改善などを背景に、プラス成長が継続するとみている。

図表4：景気動向指数（先行CI、一致CI）と基調判断の推移

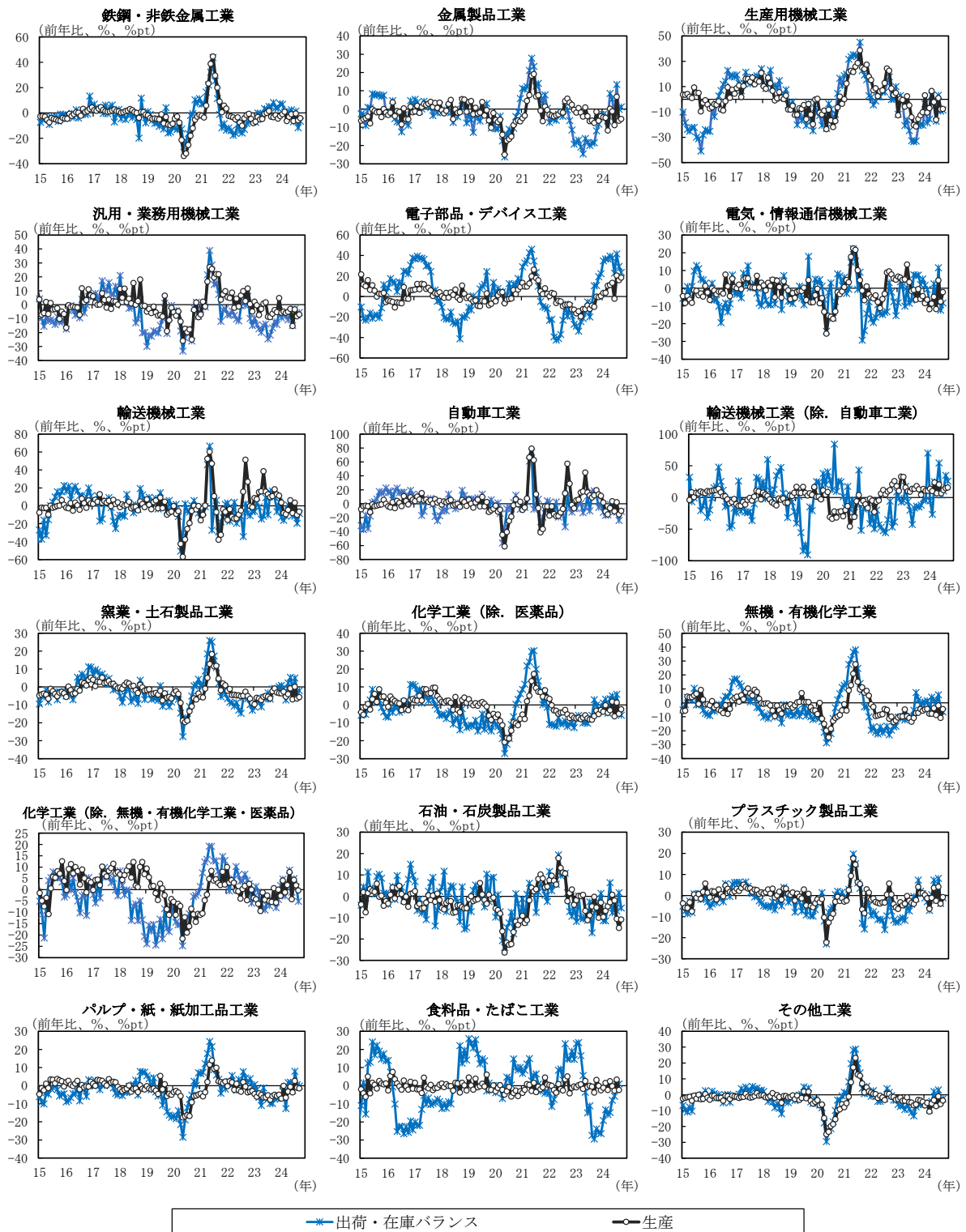


(注) 左図の直近は大和総研による予測値。シャドーは景気後退期。

右図の2023年4月以前の基調判断は2015年基準による。2024年9月は和総研予想。

(出所) 内閣府統計より大和総研作成

業種別 出荷・在庫バランスと生産



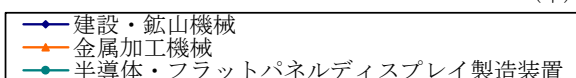
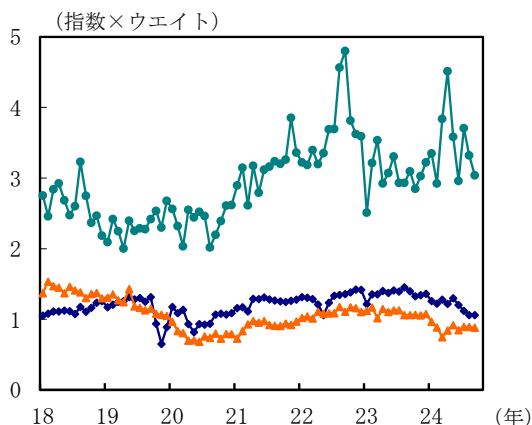
(注1) 出荷・在庫バランス＝出荷前年比－在庫前年比。

(注2) 食料品・たばこ工業は速報では公表されないため直近値は前月の確報値。

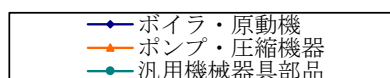
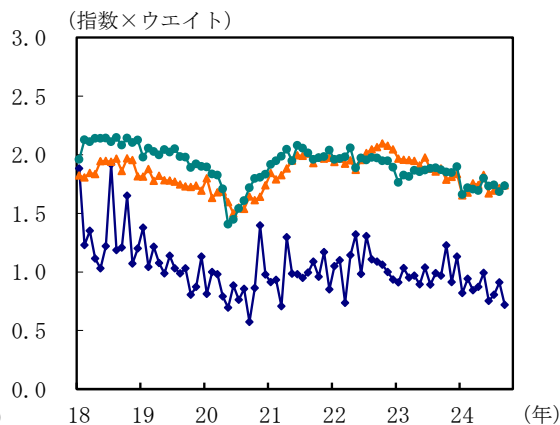
(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

主要産業の生産動向(季節調整値)

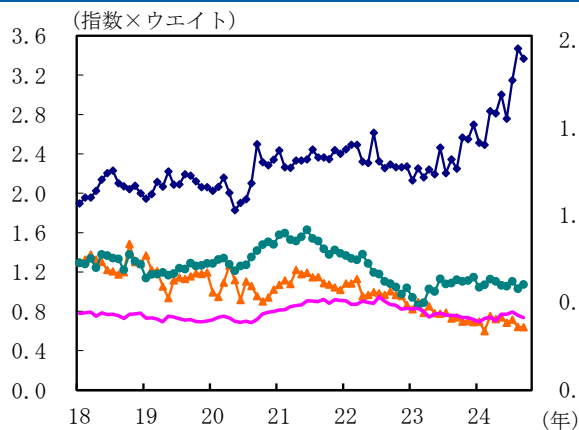
生産用機械



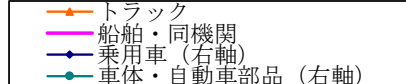
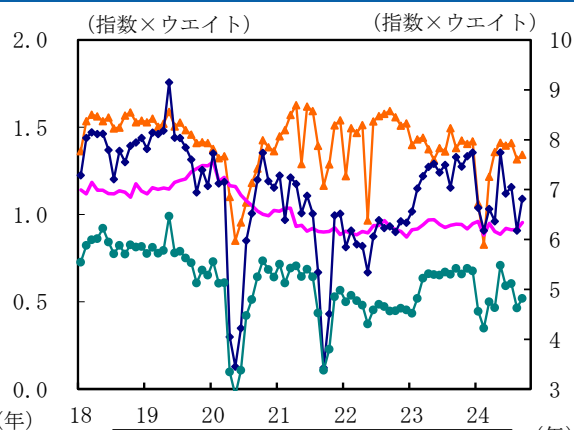
汎用・業務用機械



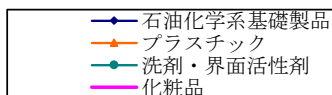
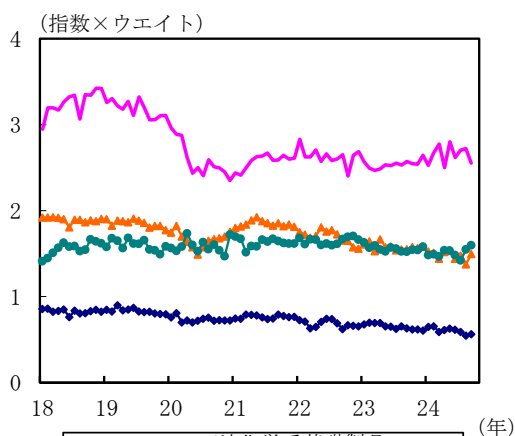
電子部品・デバイス



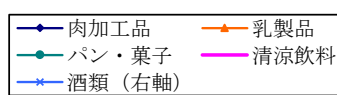
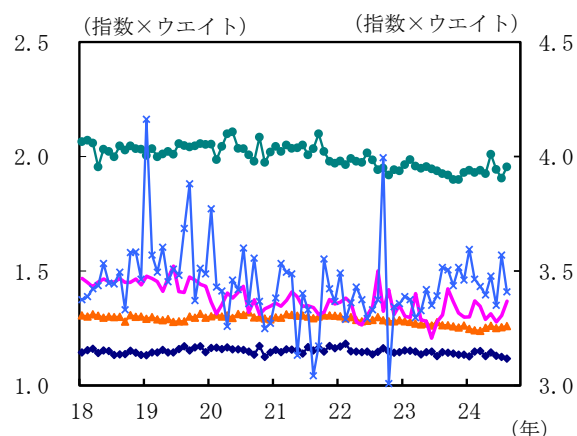
輸送機械



化学



食品・たばこ工業



(注) 食料品・たばこ工業は速報では公表されないため、直近値は前月の確報値。

(出所) 経済産業省統計より大和総研作成